

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 1 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約2.0 m ³ /h	19.1	106.8 kPa abs	A系: 0.14 vol%
		給水系:約2.5 m ³ /h			B系: 0.12 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.5 m ³ /h	33.4	5.82 kPa g	A系: 0.02 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.02 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.5 m ³ /h	33.6	0.25 kPa g	A系: 0.18 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.17 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

- [1号機]・1/18 10:51 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.3 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。
- [2号機]・1/17 17:35 定例の原子炉注水ポンプの切り替え後に、原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.6 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。
- [3号機]・1/17 17:35 定例の原子炉注水ポンプの切り替え後に、原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.7 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.3 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。
- ・1/18 10:51 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.1 m³/h から約 2.0 m³/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量は約 3.5 m³/h で継続。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (1/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	9.5
2号機	循環冷却システム	運転中	11.2
3号機	循環冷却システム	運転中	8.7
4号機	循環冷却システム	運転中	20

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	1/18 13:48 ~ 移送実施中

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (1/18 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	停止中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/1/15 9:00 第二セシウム吸着装置(サリー)のフィルタ洗浄のため、同装置を停止。今後配管部等の健全性確認を目的とした検査(非破壊検査)を実施するため、1/23 まで停止予定。

< 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/1/16 当社社員が6号機補助海水系*の原子炉補機冷却系熱交換器(B)出口配管のサンプリング配管閉止作業を行っていたところ、13:38 頃にサンプリング配管の補助海水系母管接続部付近から海水が漏えい。その後、漏えい箇所がサンプリング配管フランジ部であることを確認。床へ漏えいした海水は約 240 リットル。15:33 に漏えい箇所を隔離したところ、海水漏えいは停止。なお、漏えい箇所の隔離に伴い燃料プール冷却浄化系の冷却機能が停止。燃料プール水温が上昇した際には、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉冷却)と非常時熱負荷運転(燃料プール冷却)の切り替えで冷却を実施する予定。

H25/1/18 漏えい箇所の上流側サンプリング配管フランジ部に閉止板を取り付ける修理を実施し、14:51 に漏えい確認を行い、異常がなかったことから、15:07 に原子炉補機冷却系熱交換器(B)の海水通水を開始し、燃料プール冷却浄化系の冷却機能を再開。なお、燃料プール水温度は漏えい箇所隔離時の 19.6 から 29.0 まで上昇したが、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、燃料プール水温度管理上問題ない。

* 燃料プール冷却浄化系の冷却に使用。

・H25/1/21 メガフロートの移設に伴い、物揚場前での遮水壁工事の施工が可能となったことから、これまで1~4号機取水路前面エリアで先行削孔を実施していた作業船を物揚場前に移動するにあたり、1~4号機取水路前面エリア北側のシルトフェンスの開閉作業を実施予定。なお、天候や波の状況により、シルトフェンスの開閉作業の日程は変更の可能性がある。

以上